

平成 20 年度事業報告

(平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

<総務関係>

1. 理事会・評議員会の開催

第 38 回定例評議員会並びに第 83 回定例理事会

月日：5 月 30 日

場所：山の上ホテル

- 議題：第 1 号議案 「平成 19 年度事業報告案」について
第 2 号議案 「平成 19 年度収支決算案並びに監査報告」について
第 3 号議案 「平成 20 年度事業」について
第 4 号議案 「事務局移転にかかる寄附行為の変更」について
第 5 号議案 「任期満了による役員改選」について
第 6 号議案 「文字・活字文化推進機構への協力」について

第 39 回定例評議員会並びに第 84 回定例理事会

月日：12 月 3 日

場所：日本出版クラブ会館

- 議題：第 1 号議案 「平成 20 年度上半期事業報告並びに収支報告」について
第 2 号議案 「平成 20 年度下半期事業計画」について
第 3 号議案 「平成 21 年度に向けて」について
第 4 号議案 「公益法人制度改革」について
第 5 号議案 「理事・評議員の一部改選」について
- ◆ 土屋博功 理事→正能康成 理事（中央社社長）
 - 大橋晴夫 評議員→遠藤絢一 評議員（日本放送出版協会社長）
 - 井上俊夫 評議員→山本裕一 評議員（日書連理事）

第 40 回定例評議員会並びに第 85 回定例理事会

月日：3 月 12 日

場所：日本出版クラブ会館

- 議題：第 1 号議案 「平成 20 年度事業報告並びに収支報告案見直し」について
第 2 号議案 「平成 21 年度事業計画案並びに予算案」について
第 3 号議案 「文字・活字文化推進機構並びに国民読書年関連」について

事業報告

1. 生涯学習事業

第 16 期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、平成 5 年より続く人気講座ですが、昨年度の開講にあたってテキストを改訂し、カリキュラムを一新いたしました。監修にはライター・書評家の永江朗氏、校長には読書家として知られる俳優の児玉清氏を迎えました。

今年も引き続き、執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただき、さらに魅力的な講座とすることができました。初の試みとして、受講生によるブックトーク実演（お勧め本 1 冊の紹介）を盛り込みました。1 人 3 分という時間制限で、100 人を目の前にして少々緊張した方もいたようですが、工夫して本の魅力を伝えていました。最後には全員の紹介本をまとめた冊子を配り 16 期の共有財産として残ることになりました。

平成 20 年 7 月から 21 年 1 月まで、6 ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、1 月 30 日に行われた修了式では、児玉清氏の記念講演が行われ、児玉“校長”が、「読書がもたらす想像力こそ大事」と題して、読書の魅力や自身の読書体験について語りました。

修了式では、来賓の日本書籍出版協会 小峰紀雄理事長から激励の祝辞を賜り、講師代表として永江氏が新たに誕生した JPIC 読書アドバイザーにエールを贈りました。

第 16 期の修了生は 99 名、北海道から沖縄県までの全国各地に、新たな JPIC 読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約 1,600 名となりました。（受講料：一般 57,750 円 JPIC 賛助会員 52,500 円）

PH①

PH②

<スクーリング スケジュール一覧>

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	2008年 7月25日(金)	開講式 総論 アドバイザー活動 JPIC概要 読みきかせとブックトークのポイント	永江 朗 JRAC 中泉 淳 越高一夫
スクーリング②	2008年 7月26日(土)	読書の歴史 書籍編集 編集者が語る本ができるまで グループディスカッション 懇親会	津野海太郎 松田哲夫
オプションツアー	2008年 7月27日(日)	講師の引率による書店ツアー(教文館、嶋田洋書、ブックハウス神保町、丸善丸ノ内本店、八木書店)	永江朗
オプションツアー	2008年 9月5日(金)	見学会(国立国会図書館、印刷博物館、大日本印刷、日本出版販売王子流通センター)	
スクーリング③	2008年 9月6日(土)	YA文学の魅力 印刷の歴史と現在 出版流通 グループディスカッション	金原瑞人 中西秀彦 永江 朗
スクーリング④	2008年 9月7日(日)	古書の世界の奥深さ 身近な古本の楽しみ方 本のつくりや装丁について	八木壯一 岡崎武志 岡本幸治
スクーリング⑤	2008年 11月1日(金)	よみきかせ演習 書評書評の読み方書き方 出版情報 グループディスカッション	豊崎由美 永江 朗
スクーリング⑥	2008年 11月2日(土)	グループディスカッション 図書館の役割、国内外の図書館の具体例 乳幼児～児童期の読書傾向	大串夏身 佐々木宏子
スクーリング⑦	2009年 1月30日(金)	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 児玉 清

※スクーリング毎に10～20人ずつ「本のはなし」を実施。

PH③

PH④

＜第16期受講生 属性一覧＞

男女計	男性	女性
100	7	93

年代別	20代	30代	40代	50代	60代
100	10	22	33	26	9

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	4	5	58	8	1	7	9	4	1	3	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	取次会社	公務員
	30	8	15	1	3	2
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	16	3	8	1	4	9

「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」への活動支援

平成5年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成20年度末で約1,600名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC)」を組織して、活発に活動しています。

修了生の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」、JPICによせられる「各種団体開催の読みきかせ講習会の講師への対応」など、多岐にわたります。全国には地域支部が13支部あり、交流しています。

JPICとしてもさらにJRACの活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ実践講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなし広場」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、おはなし会の読み手を依頼しています。

また、『この本読んで!』では毎号、JRACメンバーが「おはなし会プログラム紹介」を執筆し、読者から人気のコーナーとなっています。(JRAC 会員：約550名、20年度末現在)

PH⑤

子どもの読書サポーター講習会

読みきかせの輪を全国各地にもっともっと広げるため、1999年より開催した「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を発展させ、文字・活字文化推進機構と共催で「子どもの読書サポーター講習会」を開催いたしました。(実施：15ヶ所 参加者：1,291名)

プログラムAでは、絵本作家や研究者による特別講演、JPIC 読書アドバイザーによる「おはなし会」をするための実技やポイント、「おはなし会」実演などの講習を行いました。

プログラムBでは、おはなしおばさんとして活躍する藤田浩子さんを講師に、わらべうたや手遊びなどの講習を行いました。

また、A・Bともに、全国各地の読みきかせ活動の現状や子どもの読書活動推進法など、読書推進の現状について説明いたしました。(参加費：プログラムA・2,000円、プログラムB・3,000円)

主催：文字・活字文化推進機構、共催：JPIC

	日程	開催地	プログラム	会場	特別講師講師	申込者数	参加者数
1	7月27日	千代田区	B	秋葉原コンベンションホール	藤田浩子	385	136
2	8月30日	名古屋市	B	愛知県産業貿易館	藤田浩子	219	132
3	9月21日	津市	A	三重県総合文化センター	長野ヒデ子	82	61
4	10月5日	大阪市	B	梅田スカイビル	藤田浩子	328	138
5	10月11日	新潟市	A	新潟テルサ	阿部恵	94	70
6	11月8日	秋田市	A	秋田テルサ	長野ヒデ子	94	75
7	11月15日	千代田区	A	学術総合センター	とよたかずひこ	192	133
8	11月24日	大分県	A	大分県教育会館	浜田桂子	82	68
9	12月7日	熊本市	A	レンガヒル熊本	内田麟太郎	111	85
10	12月13日	静岡市	A	シズウェル	ひろかわさえこ	49	35
11	1月17日	高松市	A	高松商工会議所	浜田桂子	90	80
12	1月24日	北九州市	A	小倉興産KMMビル	岩城敏之	83	68
13	2月1日	福島市	A	福島県文化センター	阿部恵	130	90
14	2月7日	下関市	A	海峡メッセ下関	とよたかずひこ	85	63
15	2月22日	那覇市	A	沖縄県青年会館	岩城敏之	73	57
合計						2,097	1,291

PH⑥

7月27日 千代田会場

ヤングアダルト文学講座

小学校高学年から中高生に向けて読書推進を行っている方を対象に、児童文学者による基調講演、JPIC 読書アドバイザーによるブックトーク講習と実演を交えて、講習会を行いました。中高生の参加も呼びかけました。(実施：5会場、584名の参加、内学生30名。参加費1,000円、学生無料)

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	基調講演	申込者数	参加者数
1	8月23日	富山市	ボルフアート富山	金原瑞人氏	90	75
2	9月28日	神戸市	三宮研修センター	清水真砂子氏	151	128
3	10月18日	札幌市	きょうさいサロン	清水真砂子氏	120	103
4	11月30日	新宿区	ファーストウエスト	さくまゆみこ氏	159	109
5	1月18日	福岡市	アクロス福岡	金原瑞人氏	157	169
合 計					667	584

PH⑦

8月23日 富山会場

2. 調査研究事業

「文字・活字文化振興法」対策研究委員会

①大学読書人大賞 協力

若い世代と「読書の魅力を共有したい」、大学生に「本を真中にディスカッションしてほしい」との考えから、フランスの「高校生ゴンクール賞」を参考に19年度よりスタートした「大学読書人大賞」が第2回を迎えました。20年度も応援、共催をいたしました。

企画・実施のほとんどは、大学文藝部（サークル）に所属する有志大学生で作る大学読書人大賞実行委員会が行っています。

5月4日には、昨年度から引き続いておりました第1回の公開討論会を開催いたしました。約200名の観客が見守る中、大学生による真剣な討論が交わされました。推薦サークル代表者が自身の推薦する作品以外に順位をつけ、順位を点数化して集計した結果、第1回大学読書人大賞はアーサー・C・クラーク著『幼年期の終わり』（光文社）に決定いたしました。6月11日には翻訳者の池田真紀子氏を迎えての贈賞式を執り行いました。

第2回大賞の選定にあたっては、まず全国の大学生文芸サークルが各々6作品を選びました（参加サークルは34）。投票数上位6作品を候補作品として、改めて参加サークルが1作品を選んで推薦文を書き、サイト上の推薦文の中から優秀作品を選びます。その優秀推薦文を書いた6サークルが集い、公開討論会にて大賞が決定されます。公開討論会は21年5月5日に東京都美術館講堂にて開催されます。

記者会見には、今年度も約50名もの取材陣に出席いただき、出版業界・専門紙にはすべて掲載いただくとともに、複数の一般紙にも大きく取り上げていただけました。

また、新たな試みとして、1月14日に各候補作品の編集者を招き、大学生たちとの懇談会を開催いたしました。

企画・実施内容の詳細は、<http://www.jp-pic.or.jp/dokushojin/>にて公開いたしました。

②「みんなの読書大作戦～大学生編」 開催

大学生が主体となって企画運営している、読書に関する仕掛けの数々を、大学生たちだけでなく、出版業界や一般の方々へも知ってもらおう、と「みんなの読書大作戦～大学生編」を11月3日に三省堂書店・神保町本店にて開催いたしました。

約100名の観客が見守る中、5団体がそれぞれの読書推進運動や出版活動について発表を行いました。「立命PENクラブ」（立命館大学）は、同大学内で行っている作家講演会や書評活動について発表いたしました。大学生に向けて大学生が発行する読書情報誌「読書の

いずみ」委員会は、企画・取材にまつわる苦労や楽しみについて語りました。「読書マラソン」交流会実行委員会は、2007年より、作家を招いての講演会、学生たちの活動紹介、懇親会を行っています。120名の学生が集った同会での体験について発表いたしました。「出版甲子園」実行委員会は、コンテスト実施までの経緯や仕組みなどを発表し、本を作りたいと願う大学生の熱意や、学生ならではの企画の意義について語りました。2008年に第1回の大賞が決定したばかりの「大学読書人大賞」実行委員会は、全国の文芸サークルが大学生に読んでほしい本を選ぶ、という同賞選出の仕組みや、大賞決定の公開討論会での様子を説明し、大学生が本を読むきっかけを作れば、と締めくくりました。

観客の方々からは、大学生たちの活動に感嘆の声が多く寄せられました。大学生からは、よい交流の場となり、相互に刺激を受けたとの感想が聞こえました。

また、発表の様子は、出版業界・専門紙にも大きく取り上げていただきました。

③ NHK「私の1冊 日本の100冊」協力

10月27日(文字・活字文化の日)より21年3月27日まで、NHK BS-2ならびにBS-hiで「私の1冊 日本の100冊」が100回にわたって放送されました。このシリーズにあわせ、10月26日と終了後の3月28日には2時間枠の特別番組が放送されました。

シリーズは、各回、著名人がおすすめ・思い出の1冊を紹介する内容で、計100冊が取り上げられました。また、視聴者からの「私の1冊」も公募され、特番ではJPIC読書アドバイザーも取材されました。好評につき、4月からはNHK総合にて再放送が決定しています。

JPICでは、この企画に協力し、ポスター、チラシ、POPを12,000セット製作し、日本書店商業組合連合会・各書店・日本出版取次協会・取次各社の配布ご協力により、書店店頭での連動フェアに活用いただきました。

チラシ

④ 財団法人文字・活字文化推進機構の活動協力

JPICは、財団法人文字・活字文化推進機構の設立準備の段階から事務局を兼ね、現在は事務局のサポートをしています。

同機構の主な平成20年度活動は以下のとおりです。

4月23日 子どもの読書活動推進フォーラム開催

(共催：文部科学省、独立行政法人 国立青少年教育振興機構)

6月6日 「2010年 国民読書年」国会決議(提唱)

- 6月16日 「国民読書年」国会決議に関する報告集会
- 7月27日 「子どもの読書サポーター講習会 in 千代田区」(以降、全国16回開催)
- 8月2～4日 第1回「わくわく子ども読書キャンプ in びわ湖」開催
(共催：国立青少年教育振興機構)
- 9月13日 「子どもの読書環境整備推進フォーラム in 東京」開催(共催：毎日新聞社)
- 9月27日 「子どもの読書環境整備推進フォーラム in 大阪」開催(共催：毎日新聞社)
- 10月30日 シンポジウム「あたたかい医療と言葉の力」開催(共催：朝日新聞社)
- 11月1・2日 神保町ブックフェスティバル・セミナー開催(共催：読売新聞社)
- 11月10日 シンポジウム「仕事に生かす読書術」開催(共催：日本経済新聞社)
- 11月18日 「2010年国民読書年推進会議」発足の集い開催
- 1月21日 ドイツ読書基金・ドイツ文化センターとの共催シンポジウム開催
- 1月31日 「活字文化の振興における教科書の役割」開催(共催：教科書協会)
- 3月20～22日 「子どもの本まつり in とうきょう」開催(共催：JPIC、JBBY)
- また、「言語力検定」を平成21年10月に実施すべく精力的に準備を進めています。

⑤日独読書交流会を開催

21年1月21日、ドイツから *stiftung lesen* (読書基金) のクライビッシ会長、クライネブリック副会長を迎え、意見交換会を開催いたしました。(主催：ドイツ文化センター、共催：JPIC、文字・活字文化推進機構、日本書籍出版協会。於：港区赤坂・東京ドイツ文化センター)

読書基金はドイツでの最大の読書推進組織として、1988年に発足以来、約30～40企画の事業を展開しています。収入の80%を企業からの協賛で賄っており、年間の予算は約400万ユーロ(約6億円)にのぼります。ドイツ教育文化省の協力により、世界各国の読書推進活動の情報交換サイト「reading-worldwide」(<http://www.reading-worldwide.de/>)を運営しています。

出版業界との意見交換会には、日本側から共催団体に加え、読書推進運動協議会、JBBY、ブックスタートも参加しました。

午後には一般公開として「ドイツ読書基金から学ぶ～社会の安定と発展のために読書ができること」を開催いたしました(参加：118名)。肥田美代子理事長が日本の読書推進の歩みを紹介し、2010年国民読書年、国際子ども読書年への取り組みを説明しました。

読書基金とは、今後も情報交換や共同事業に向けての検討を続けていきます。

3. 情報提供事業

「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月1回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。

JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成10年2月よりホームページ (<http://www.jp-pic.or.jp/>) を公開しています。

平成14年8月に全面リニューアルして公開し、全国のボランティアの方々との関係強化を図り情報の提供を行っています。

JPIC が主催・協力する各地の講習会・説明会などの案内も掲載しているため、ホームページ経由で各種事業に参加されるボランティアも増えています。

また、「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報を配信しています。メルマガ読者の優先申込枠を設け、講習会の申込を簡略化することで、これまでより一層手軽で迅速な告知集客が可能になりました。



季刊誌『この本読んで！』の発行

る JPIC の読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌『この本読んで！』を平成 13 年 11 月に創刊（事業協力：博報堂）。平成 21 年 2 月号で通巻第 30 号となりました。公式ホームページ「えほん大好き」<http://www.ehondaisuki.jp> も好評です。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、「新刊絵本の紹介」や「絵本作家へのインタビュー」、「〈JPIC 読書アドバイザー〉おすすめ・おはなし会プログラム」など、多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。第 20 号（平成 18 年 8 月号）からデザインをリニューアルし、表紙も絵本作家の書き下ろしとなりました。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が増えており、11,000 部発行しています。

発行形態	発行：年 4 回（5 月、8 月、11 月、2 月） 形態：A4 変形・88 ページ	
掲載記事	27 号 08 年夏号	特集 1 加古里子と科学を楽しむ 特集 2 すべての子どもたちに絵本の喜びを！ こんにちは！絵本作家さん いせひでこ
	28 号 08 年秋号	特集 1 絵本の中の人気者ー日本編ー 特集 2 おはなし会を盛り上げよう こんにちは！絵本作家さん 黒井 健～感じるままに描く喜び～
	29 号 08 年冬号 (売切れ)	特集 1 絵本で世界をひとまわりーアメリカ編（前編）ー 特集 2 おはなしおばさん藤田浩子さんに聞きました こんにちは！絵本作家さん 西村繁男・いまきみち夫妻
	30 号 09 年春号	特集 1 絵本で世界をひとまわりーアメリカ編（後編）ー 特集 2 近藤信子さんとわらべうたで遊ぼう こんにちは！絵本作家さん 熊田千佳慕～三眼レフのカメラを持って～
購読料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期購読（4 冊）：4,200 円（送料無料、税込） ・バックナンバー：1,200 円（送料・税込） ・定期購読者特典／バックナンバー（2 号～19 号）2 冊セット：1,300 円（送料・税込） 	

この本読んで！
27 号

この本読んで！
28 号

この本読んで！
29 号

この本読んで！
30 号

4. 交流協力事業

地域読書環境整備事業

JPIC では、書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、5 地域において、自治体のモデル読書施設開設・運営を協力しています。

大分県耶馬溪町「わかば」（平成 4 年 5 月開設）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成 4 年 10 月開設、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成 5 年 10 月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成 7 年 2 月開設）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成 8 年 7 月開設、開設時は北御牧村）。

開設した全施設が地元の読書推進運動の中核的な役割を担いながら運営を継続しています。いくつかの施設では、市町村合併により同一自治体内に書店や図書館が存在する状況となりましたが、施設を中心に読書推進関連イベントを開催するなど、地域住民に親しまれながら存続しています。JPIC でも、イベントの企画や研修会の開催協力を行っています。

「第 4 土曜日は、こどもの本の日」キャンペーン

子どもに本の楽しさを伝え、本に親しむ環境を提供することを目的に、日本書店商業組合連合会・日本児童図書出版協会・日本出版取次協会・JPIC が中心となり、平成 10 年より全国展開したキャンペーンを再開いたしました（平成 10 年より 18 年にかけて、巡回開催。1 周目：45 都道府県、410 書店）。

今年度より、地区ブロック単位での開催とし、10 月～12 月にかけて、北海道書店商業組合加盟店のうち、参加書店 13 店の店頭において、おはなし会を実施いたしました。

読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて業界各社が取り組む各事業（①全国訪問おはなし隊 ②おはなしマラソン ③取協読書推進事業「読みきかせ会」）に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地域の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせ・ブックトークを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

①全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、5 巡目を展開しています。全国の保育園、幼稚園、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせや紙芝居を通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています。（20 年度：1,133 会場 累計実績：10,997 会場）

②おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。（累計実績：617 書店）

③取協読書推進事業「読みきかせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読みきかせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭での活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読みきかせ会を開催しました。（期間：平成 20 年 12 月 6 日～平成 21 年 2 月 7 日の毎週土曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：41 書店）

第9回「上野の森 親子フェスタ」の開催

「2000年子ども読書年」を記念して開催した「上野の森 子どもフェスタ」、翌年から「上野の森 親子フェスタ」として拡充開催しています。平成20年には第9回の開催を迎え、ゴールデンウィークの上野公園の恒例行事として定着してきた本事業には、今年も多くの人が詰め掛けました。(開催：平成20年5月3日～5日、子どもの読書推進会議と共催)

- 協賛：日本公文教育研究会
- 後援：経済産業省、文部科学省、厚生労働省、
国立国会図書館国際子ども図書館、東京都教育委員会、台東区、読売新聞東京本社、文字・活字文化推進機構
- 協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会、日本児童図書出版協会、日本出版取次協会、日本国際児童図書評議会

PH⑧

上野恩賜公園中央噴水池周辺では過去最大の58社の協力による「チャリティ・ブック・フェスティバル」が開催されました。初日3日は残念ながら雨天のため中止といたしましたが、全体では2,427万円強を売り上げました(概ね20%割引の読者謝恩価格)。

今年度も、日本書籍協会の協力により50%の割引販売「出版社共同企画謝恩価格本フェア」を実施いたしました。

PH⑨

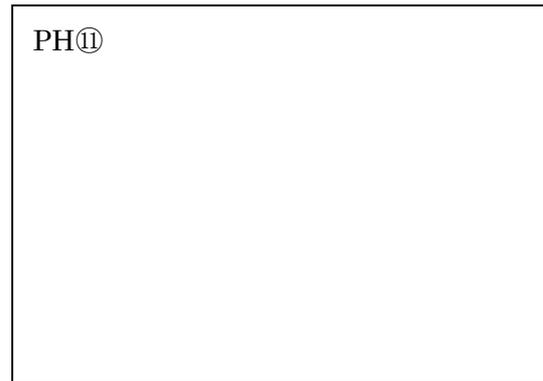
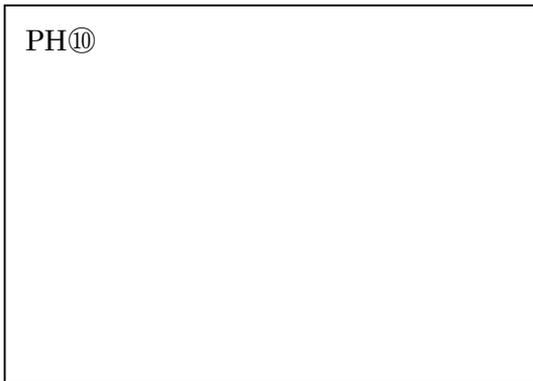
■ 出展社一覧 58版元 (50音順)

アールアイシー出版	あかね書房	アスラン書房	いかだ社
一声社	いのちのことば社	今人舎	絵本の家
えほんの杜	大月書店	KIBABOOK	金の星社
くもん出版	佼成出版社	講談社	ゴブリン書房
ゴマブックス	小峰書店	朔北社	集英社
主婦の友社	小学館	瑞雲舎	鈴木出版
誠文堂新光社	世界文化社	大日本絵画	大日本図書
童心社	徳間書店	ドン・ボスコ社	西村書店
農山漁村文化協会	博雅堂出版	BL出版	ひさかたチャイルド
評論社	ビリケン出版	福音館書店	富山房
ポプラ社	ほるぷ出版	理論社	YA出版会
おはなしサポートの会(アリス館、岩崎書店、学習研究社、フレーベル館、文研出版)			
森の会(クレヨンハウス、さ・え・ら書房、のら書店、文溪堂、星の環会、リブリオ出版)			
自然の会(全国農村教育協会ほか)			

また、同会場では常時、「全国訪問おはなし隊」（協力：講談社）キャラバンカー前特設会場やイベントテントにて出展各社協力によるおはなし会や紙芝居、出展社ブースでは絵本作家のサイン会が行われました。（「くもん幼児フェスタ」は雨天のため中止）

講演会も、東京都美術館講堂を会場に 6 講演が行われ、約 1,800 名の親子・読者に読書の魅力やおはなしの楽しさを伝えました。

また、第 1 回目となる「大学読書人大賞」の最終公開討論会が開催され、多くの大学生が見守る中、大学文芸サークルによるプレゼンテーションと熱のはいった討議が行われました。投票の結果、大賞には『幼年期の終わり』（光文社古典新訳文庫）が選ばれました。



■ 講演会一覧（子どもゆめ基金助成活動）

日程	タイトル	出演者	参加人数
3日 (日・祝)	絵本と一緒にわくわく子育て	藤田浩子さん (協力：一声社)	273名
3日 (日・祝)	お話としかけ絵本で遊ぼう！	きむらゆういちさん (協賛：小学館)	276名
4日 (月・祝)	JPIC 読みきかせサポーター講習会特別篇「続・心をつなぐ読みきかせ絵本 100」	越高一夫さん、 JPIC 読書アドバイザー	266名
4日 (月・祝)	「大学生読書人大賞 2008」 公開討論会	コーディネーター：永江 朗さん 大学文芸サークル	197名
5日 (火・祝)	「高齢化社会と子どもの本」	松居 直さん (共催：日本国際児童図書評議会)	269名
5日 (火・祝)	「もったいないばあさん」と 遊ぼう！踊ろう！	真珠まり子さん (協賛：講談社)	272名

「21世紀活字文化プロジェクト」への協力

読売新聞社は、思考力や想像力を育む本や新聞などの活字文化の振興を図り、活力ある社会の再構築をめざすため、出版関係業界と協力して「活字文化推進会議」を発足させ、「21世紀活字文化プロジェクト」に取り組んでいます。

同プロジェクトの一環として、家庭での読みきかせを普及させるため、「お父さんとお母さんの読みきかせ教室」に協力しました。(実施：6ヶ所 参加者：365家族)

絵本作家や保育専門家の講演とともに、JPIC 読書アドバイザーによるおすすめ絵本紹介や手遊びなどを行い、家庭で読みきかせをすることの大切さを伝えました。

今年度をもって、予定していた全都道府県での開催を終了いたしました(沖縄を除く)。

	日程	開催地	会場	講師	参加家族数
1	5月31日(土)	秋田市	秋田市土崎公民館	とよたかずひこ氏	100家族
2	7月26日(土)	福井市	福井市地域交流プラザ	とよたかずひこ氏	78家族
3	9月27日(土)	松江市	松江市総合文化センター	岩城敏之氏	38家族
4	11月16日(日)	和歌山市	和歌山市男女共生推進センター	さいとうしのぶ氏	40家族
5	12月6日(土)	山口市	パルトピアやまぐち	のぶみ氏	23家族
6	2月14日(土)	徳島市	徳島市立文化センター	阿部恵氏	86家族
合 計					365家族

「スミセイおはなし広場」への協力

財団法人住友生命健康財団は、読書をとおした子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会を創造する「スミセイおはなし広場」を実施しています。

その一環である「おはなし広場キャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本や大型絵本、紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読書サークルをコーディネートして開催するおはなし会は、地域交流のきっかけという役割も担っています。

20年度は、4地域(6月山梨県甲府市周辺、9月滋賀県大津市周辺、10月兵庫県神戸市周辺、11月鹿児島県鹿児島市周辺)で開催し、9,370名の園児が参加しました(実施：111施設)。

赤ちゃん本舗「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」への協力

育児用品などの販売を手がける「赤ちゃん本舗」は、家庭でのコミュニケーションの発展と読書推進を目的として、店舗内のスペースを利用し、乳児・幼児・保護者を対象とした

「赤ちゃんとママのおはなし会」を実施しています。おはなし会を開催する店舗に、JPIC 読書アドバイザーや JPIC 読みきかせサポーターをコーディネートしています。(開催：毎月約 30 店舗)

「読書の腕前 上達講座」(協力:光文社)

19 年度に開催し好評だった「読書の腕前 上達講座」を引き続き各地で開催いたしました。

各地域では、地元の読書イベントの主催者と情報交換するなど、読書推進のしかけ作りのきっかけの一つとなっています。(米子では今井書店と共催、のち米子市の地域振興イベントで一箱古本市開催。京都市では学生文芸サークルと懇談。福岡市は BOOKUOKA と共催)

いずれも参加費無料。

PH⑫

■子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)助成活動

	開催日程	地域	出演者	参加者数
1	6月29日(土)	米子市	岡崎武志氏、南陀楼綾繁氏	100
2	8月9日(土)	京都市	岡崎武志氏、角田光代氏	180
3	11月29日(土)	福岡市	豊崎由美氏	105
4	3月20日(金・祝)	品川区	岡崎武志氏、荒川洋治氏	117
計		4会場		502

1 今井書店と共催

3 BOOKUOKA 連動企画

4 「子どもの本まつり in とうきょう」併催

「第6回 子どもの本まつり in とうきょう」(共催:文字・活字文化推進機構、JBBY)

3月20日～22日、品川区・ゲートシティ大崎にて、「第6回 子どもの本まつり in とうきょう」を開催いたしました。本催事は、4月2日の「国際子どもの本の日」を記念して JBBY が 2000 年から行っているものを拡充開催したものです。

主催:JPIC、文字・活字文化推進機構、JBBY

協力:日本児童図書出版協会、ゲートシティ大崎

後援:東京都教育委員会、品川区教育委員会

PH⑬

メイン会場となる、ゲートシティホールでは、3日間にわたり、様々な講演会・講習会が行われました。また、あわせて、子どもの本の展示「ハロー・ディア・エネミー！80 作品展」、「世界のバリアフリー絵本展」、「IBBY オナーリスト 2008 より松居直セレクション」などのほか、子ども向けの紙芝居、朗読会や人形劇が行われ、たくさんの親子で賑わいました。

サブ会場であるアトリウムでは、ゲートシティ内の文星堂書店による「子どもの本の市」が開かれました。児童出協の協力により、約 2,000 冊の児童書を販売いたしました。昨年の3倍を超える売上と、来場者にも好評でした。JPIC 読書アドバイザーが本の相談員として、選書のアドバイスをし、おはなし会を随時開催いたしました。22日には、小学館による「12歳の文学賞」イベントが行われ、表彰式にあわせて、あさのあつこさん、西原理恵子さん、タレントのベッキーさんや中川翔子さんが来場し、多くの人で賑わいました。

初の会場でしたが、ゲートシティ大崎の協力により、会場費用が無料となりました。また、教育委員会を通じ、品川区ほか10区の小学校全児童へのチラシ配布を行い、告知に務めました。

■ 講演会一覧

日程	タイトル	出演者	参加人数
20日 (金・祝)	読書の腕前 上達講座 (JPIC)	荒川洋治さん (詩人) 岡崎武志さん (書評家)	117名
20日 (金・祝)	イメージの伝承 ～ジャポニズムから大正デモクラ シーへの例～ (JBBY)	島 多代さん (元 IBBY 会長、ミューズ・イメージ・ネット主宰)	86名
21日 (土)	読解力向上のための ワークショップ (機構)	有元秀文さん (国立教育政策研究所総括研究官)	84名
21日 (土)	わらべうた講座 (JPIC)	近藤信子さん (とんとんやかた主宰)	103名
21日 (土)	絵本と私 (JPIC、国際子ども図書館を考 える全国連絡会)	葉祥明さん (絵本作家)	122名
22日 (日)	読書ボランティア スキルアップ (JPIC)	広瀬恒子さん (親子読書地域文庫全国連絡会代表)	85名
22日 (日)	詩と音楽のコンサート (JBBY)	谷川俊太郎さん (詩人) 谷川賢作さん (音楽家)	388名

朝日新聞社「オーサー・ビジット・プロジェクト」への協力

「オーサー・ビジット・プロジェクト」は、朝日新聞社の読書推進運動として、15年度よりスタートいたしました。

作者（オーサー）が小・中・高校の教室を訪問し（ビジット）、作者自身の言葉による授業や対話により、子どもたちの読書意欲を喚起することを目的としています。

初年度は、全国の学校から予想を上回る応募があったため、9名であった作家を翌年より倍以上の規模に拡充して開催しています。5年目の19年度は、約1,500件を超える応募があり、24名の作家が40校を訪問して、ユニークな授業をクラスで展開しました。この訪問の様子は朝日新聞 be junior「オーサー・ビジット総集編」としてタブロイド版にまとめられ、応募いただいた学校やご希望の読者へ届けられました。

JPICは事務局として協力し、応募校の受付・登録や作家と学校の訪問スケジュール調整などの役割を担っています。

PH⑭

科学ジャーナリスト 後藤道夫、撮影 吉永考宏

PH⑮

作家 上橋菜穂子、撮影 吉永考宏

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	9月10日(水)	三重県	名張市立国津小学校	増田明美(スポーツジャーナリスト)
2	9月12日(金)	滋賀県	滋賀県立河瀬中学校	海堂尊(作家)
3	9月18日(木)	福島県	棚倉町立近津小学校	那須正幹(児童文学作家)
4	9月19日(金)	茨城県	日立市立東小沢小学校	はやみねかおる(児童文学作家)
5	9月26日(金)	東京都	東京都立桜修館中等教育学校	あさのあつこ(作家)
6	10月2日(木)	京都府	南丹市立摩気小学校	荒井良二 (イラストレーター・絵本作家)
7	10月3日(金)	兵庫県	新温泉町立浜坂中学校	ねじめ正一(詩人・作家)
8	10月8日(水)	佐賀県	嬉野市立大野原小学校	今森光彦(写真家)
9	10月14日(火)	愛媛県	愛光学園中学・高等学校	池上彰(ジャーナリスト)
10	10月15日(水)	神奈川県	神奈川学園中・高等学校	池上彰(ジャーナリスト)
11	10月15日(水)	神奈川県	厚木市立上荻野小学校	武田美穂(絵本作家)

12	10月16日(木)	宮崎県	宮崎県立宮崎西高校附属中学校	甲野善紀(武術研究者)
13	10月17日(金)	福井県	若狭町立瓜生小学校	杉山亮(児童文学作家)
14	10月17日(金)	東京都	東京都立両国高等学校附属中学校	石田衣良(作家)
15	10月20日(月)	岡山県	岡山市立吉備中学校	後藤道夫(科学ジャーナリスト)
16	10月22日(水)	宮城県	石巻市立釜小学校	長谷川義史(絵本作家)
17	10月22日(水)	埼玉県	富士見市立勝瀬小学校	谷川俊太郎(詩人)
18	10月23日(木)	埼玉県	三郷市立前谷小学校	岡田淳(児童文学作家)
19	10月24日(金)	長野県	松本市立今井小学校	武田美穂(絵本作家)
20	10月27日(月)	山梨県	伊藤学園甲府湯田高等学校	茂木大輔(指揮者・オーボエ奏者)
21	10月31日(金)	北海道	北星学園大学附属高等学校	福岡伸一(分子生物学者)
22	11月5日(水)	熊本県	熊本県立済々黌高等学校	養老孟司(解剖学者)
23	11月7日(金)	大阪府	大阪府立鳳高等学校	俵万智(歌人)
24	11月10日(月)	山梨県	丹波山村立丹波小学校	後藤道夫(科学ジャーナリスト)
25	11月13日(木)	北海道	北海道函館恵山高等学校	枝元なほみ(料理研究家)
26	11月14日(金)	大阪府	大阪府立生野高等学校	海堂尊(作家)
27	11月14日(金)	佐賀県	佐賀市立開成小学校	長谷川義史(絵本作家)
28	11月20日(木)	静岡県	静岡県立静岡東高等学校	あさのあつこ(作家)
29	11月26日(水)	愛知県	名古屋市立二城小学校	松岡達英(自然絵本作家)
30	11月26日(水)	長崎県	佐世保市立字久中学校	岩合光昭(写真家)
31	11月28日(金)	青森県	弘前市立百沢小学校	俵万智(歌人)
32	12月5日(金)	秋田県	横手市立横手南中学校	工藤直子(詩人・童話作家)
33	12月10日(水)	岡山県	吉備中央町立下竹荘小学校	中川千尋(絵本作家・翻訳家)
34	12月11日(木)	山形県	上山市立上山小学校	桂文我(落語家)
35	12月15日(月)	兵庫県	関西学院中学部	亀山郁夫(ロシア文学者)
36	1月20日(火)	長野県	天龍村立天龍小学校	工藤直子(詩人・童話作家)
37	1月22日(木)	山口県	山口県立光丘高等学校	野口健(登山家)
38	1月23日(金)	大分県	由布市立石城小学校	桂文我(落語家)
39	1月23日(金)	鹿児島県	鹿児島市立紫原小学校	野口健(登山家)
40	1月27日(火)	兵庫県	兵庫県立柏原高等学校 高等学校	上橋菜穂子(作家)